

1 水稻生育状況（8月1日現在 普及センター調査ほ）

品種	区分	草丈 (cm)	葉数 (葉)	茎数 (本/㎡)	平年比 (日)	備 考 カッコ内は平年値
ななつぼし	R 8 年	86.6	11.2	603.0	- 2	出穂期 7/26 (7/25) 出穂揃 7/31 (7/29)
	平年値	90.3	10.7	546.5		
	差	-3.7	0.5	56.5		
ゆめぴりか	R 8 年	86.3	11.4	578.1	- 2	出穂期 7/24 (7/24) 出穂揃 7/29 (7/27)
	平年値	89.5	10.8	601.5		
	差	-3.2	0.6	-23.4		

(1) 生育状況について

7月下旬の低温・寡照により、出穂の進みが緩慢となっています。

(2) 土壌水分の確保

開花後、登熟初期（開花～20日間）は、籾の中で子房が急速に大きくなるため、水分が必要です。ほ場にひび割れが発生しないよう、土壌水分の維持に努めましょう。

なお、登熟初中期に高温（最高29℃、最低23℃以上）が5日以上続くと予想された場合は、間断かんがいを行い、水田地温を下げて乳白・腹白粒などの発生を防ぎましょう。但し小雨が続く場合は湛水状態を維持しましょう。

(3) 病害虫防除 【斑点米カメムシ類】

北海道病害虫防除所によると、発生量は「やや多」と予想されています。基幹防除を実施するとともに発生状況を確認し、必要に応じて追加防除を検討・実施しましょう。

(4) 落水時期と落水後の水管理

落水の目安は「穂かがみ期（出穂25日後頃）」以降です。水田が乾燥する場合は、土壌水分の確保に努めましょう。

2 畑 作

(1) 麦類 【小麦後作緑肥の導入】

地力の維持・向上のため導入を検討しましょう。緑肥の生育量を十分に確保するため、小麦収穫後、早めには種を行いましょう。

（例：「えん麦野生種」、は種時期8月上～中旬、は種量10～15kg/10a、窒素施肥量5kg/10a）

(2) ばれいしょ 【疫病】

罹病茎葉で作られた胞子が塊茎感染のもとになるため、塊茎腐敗に効果のある薬剤で防除を徹底し、塊茎腐敗の発生を防ぎましょう。

(3) 大豆 【マメシンクイガ】

本年の生育は昨年より緩慢に推移し、これから莢伸長が始まるほ場がほとんどです。防除は、成虫の飛来が確認され、莢伸長始め（約半数の株に2～3cmに達した莢が見られる）の両方が認められてから6日後頃に1回目（合成ピレスロイド剤）、その10日後に2回目（有機リン剤）を実施しましょう。

(4) 小豆

○アズキノメイガ、マメノメイガ：7月下旬～8月上旬頃に1回目、発生が多いほ場では1回目の7～10日後に2回目を実施しましょう。

○灰色かび病、菌核病：開花後に発生しやすくなるため、開花始後7～10日目に1回目、その後10日おきに1～2回防除しましょう。

(5) てんさい（詳細は北糖の技術情報を参照ください）

褐斑病は、高温多湿など発病に好適な条件下では、防除間隔を10日程度で実施しましょう。シロオビノメイガ等の害虫も発生状況に応じ防除を実施しましょう。

3 主要野菜の生育状況

作物名	生育状況	技術対策
トマト	3月定植：7～10段目収穫 4月定植：7段目収穫 5月定植：2～4段目収穫 6月定植：1～2段目収穫 ＜病害虫・障害＞ ・灰色かび病の発生が見られる ・5月、6月定植においてめがね茎、芯止まりが発生している	・ベット内側の葉や老化葉を中心に摘葉を行い、風通しを良くする ・定期的な薬剤防除を行う ・めがね茎、芯止まりとなりそうな時は花房直下の脇芽を残して主枝更新を行う ・1週間おきにホウ素入りの葉面散布剤を散布する
ハウス軟白ねぎ	・4月定植収穫中 ・アザミウマ類の発生が見られる	・ハウス内外の除草に努め、飛び込みを防ぐ ・散布量を多めにし、十分薬剤が行き渡るようにする
アスパラガス (ハウス立茎)	・夏芽収穫中 ・一部で斑点病、灰色かび病の発生が見られる	・定期的に薬剤防除を行う。 ・同じ系統の薬剤の連続使用は避け、ローテーション防除を行う。 ・ハウス周辺の除草に努め、害虫の飛び込みを防ぐ
かぼちゃ	・1番果収穫始	・黒斑病、うどんこ病の防除を行う
いちご	・収穫中（すずあかね） ・育苗中（雷峰） ・アザミウマの発生が見られる	・弱小腋芽、古葉、ランナー、不要な花房の摘除、奇形果など摘果を早めに行い果実肥大の充実を図る ・害虫防除を定期的に行う

4. 飼料作物生育状況（8月1日現在 普及センター調査ほ）

作物名	生育状況				生育期節	備考
	項目	R8年	平年	平年比	絹糸抽出期	
牧草(2番)	草丈(cm)	48.5	53.0	－3	7/30 (平年7/27)	7月下旬の寡照により2番草の生育は平年より遅い
飼料用とうもろこし	草丈(cm) 葉数(葉)	259.0 17.2	309.4 18.2	－3		沿岸部で7月下旬の低温寡照により生育が停滞するなど、地域間差が見られる

●牛は人よりも低い気温で暑さを感じ始めます。暑熱対策を行いましょう。

- ①直接牛体に風を当てることで、体感温度を下げられます。扇風機の高さや角度、風量を調節しましょう。
- ②清潔な水をいつでも飲めるように給水設備の管理を行いましょう。
- ③カリウムやナトリウム、マグネシウムなどのミネラルを補給しましょう。

●飼料用とうもろこしほ場の「ガガイモ」対策

つる性雑草「ガガイモ」は、一度ほ場に侵入すると根絶が難しい雑草です。ほ場を確認し、周縁部で発見した場合には、グリホサート系除草剤でのスポット処理を検討してください。実施の際には、ガガイモ以外の作物にかからないようドリフトに注意してください。

**『暑い時間帯の作業を避け、こまめに休憩する』など
熱中症にも注意しましょう**